

トイレの歴史 原始～古代

原始

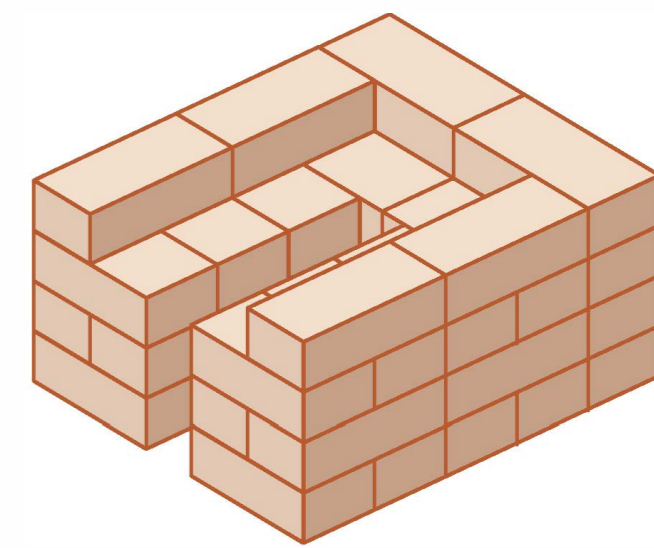
世界

世界で最も古い水洗式のトイレは、今から4000年以上も前の古代メソポタミア文明(イラク)アッカド王朝のテル・アスマル遺跡(紀元前2200年ころ)から発見されました。

参考:「世界のトイレの歴史」名古屋市上下水道局 水の歴史資料館
図版引用: https://www.researchgate.net/publication/306132530_Evolution_of_Toilets_Worldwide_through_the_Millennia



排泄物は水で流れるように工夫されていた

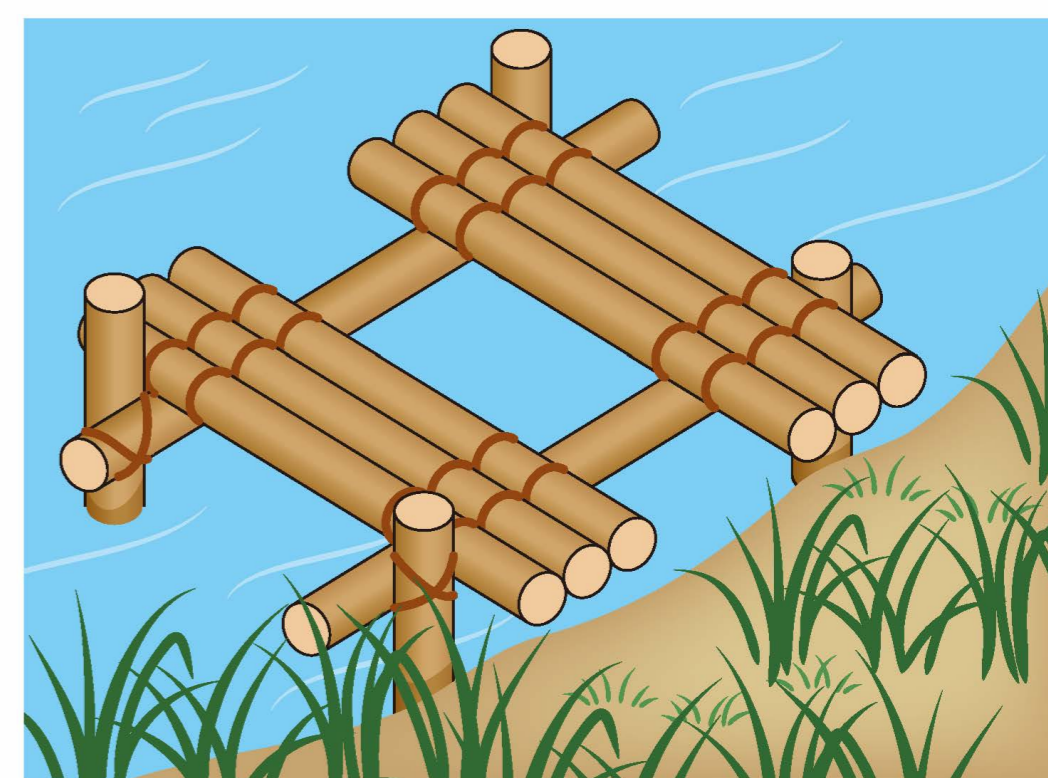


テル・アスマル宮殿(紀元前2200年ころ)から発掘された便所▶

日本

日本では縄文時代の鳥浜貝塚(福井県)からトイレ跡が発見されていて、川岸に木の杭を打ってその上に板を渡した栈橋のようなものだったと考えられています。

参考:「縄文からIoT時代へ、トイレ1万年の進化」 / NTTファシリティーズ「トイレについて」



▲かわや想像図

古代

世界



古代ローマでは紀元前から下水道が整備され、公衆浴場や水洗式の公衆トイレ、庶民の共同住宅の排水口とつながっていて汚水は川に流されました。しかし、古代ローマで発達した水洗式トイレは中世のヨーロッパに受け継がれず途絶えてしまいました。

参考:「世界のトイレの歴史」名古屋市上下水道局 水の歴史資料館

◀古代ローマ様式のトイレ

日本



▲復元された奈良時代水洗廁舎(秋田城址)

飛鳥時代になると穴を掘って上に板を渡して、そこにまたがって排便をしていました。たまった便は川に流していました。奈良時代になると、貴族は屋根を付けた水路に川から水を引いてきた「かわや」で排便をしていました。また平安時代には貴族は「ひばこ」と呼ばれる

木でできた便器に排便し、たまった便は家来が処分しました。

庶民は道路の端で排便していて、便器のない状態が続きました。

参考:「日本のトイレの歴史」名古屋市上下水道局 水の歴史資料館



平安時代の「ひばこ」▲

トイレの歴史 中世～近世

中世

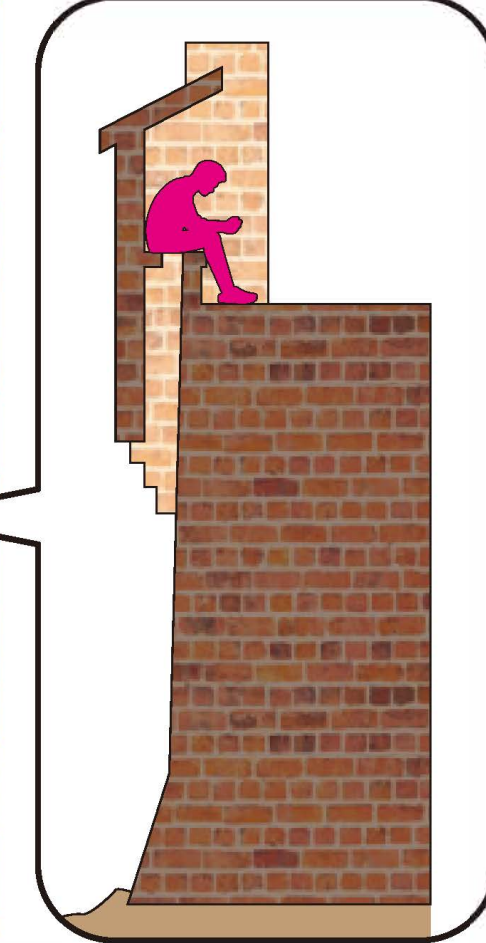
世界

中世のヨーロッパでは、城や修道院にはトイレが
ありましたが、一般の家庭にはトイレはなく「おまる」
を使っていました。たまった便は決められた場所
に捨てることになっていましたが、窓から捨てる場
合が多く、街中で排泄物が悪臭を放っていました。

参考: 「トイレの知られざる歴史 海外と日本」日本水道センター
「世界のトイレの歴史」名古屋市上下水道局 水の歴史資料館



▲中世ヨーロッパの城の便所

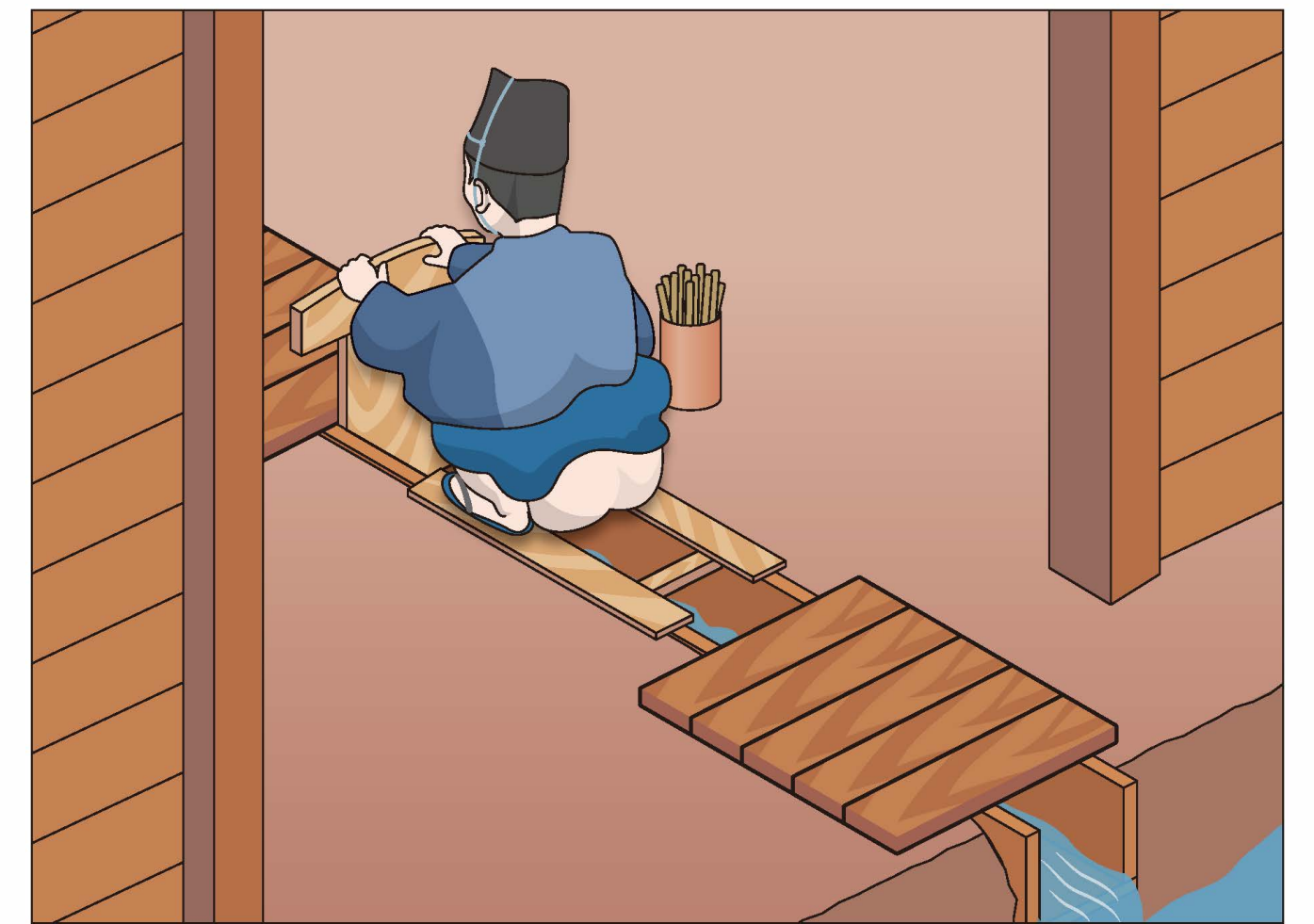


▲家の窓から捨てられる排泄物

日本

鎌倉時代になると汲み取り式のトイレが普及し、ためた尿や
便は米や麦を育てる肥料として使われました。
公共のトイレもつくられましたが仕切りがないものでした。
このころから紙も使われるようになりました。

参考: 「縄文からIoT時代へ、トイレ1万年の進化」NTTファシリティーズ
「日本のトイレの歴史」名古屋市上下水道局 水の歴史資料館



▲復元イラスト

近世

世界



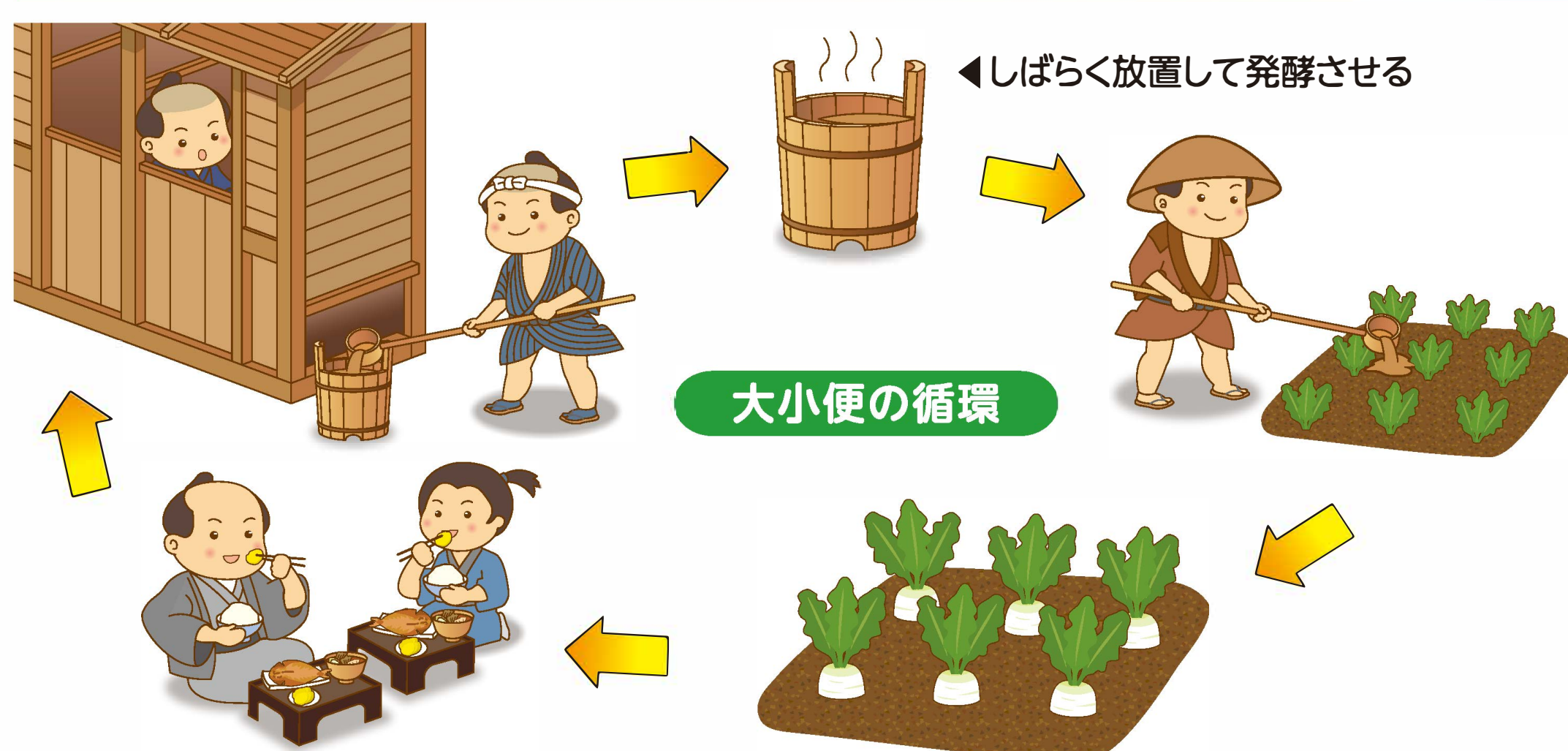
A COURT FOR KING CHOLERA.

ロンドンでコレラが流行し、衛生観念が根付き始めると、1855年
から下水道工事に着手し、川に直接流していた下水を街の下流で
流すようにしました。ヨーロッパ各国やアメリカなども上下水道が
整備されるようになりました。

参考: 「日本のトイレの歴史」名古屋市上下水道局 水の歴史資料館 / 「下水道の歴史」国土交通省

▲19世紀ロンドンのスラム街の混雑した不衛生な状況を示す風刺画
「コレラ王の宮廷」(A Court for King Cholera) イギリスの風刺漫画雑誌「パンチ」(1852年)

日本



江戸時代になると汲み取り式のトイレは
さらに発展し、大小便は便器の下の便槽
にためられ肥料として売られるまでになり
ました。

参考: 「日本のトイレの歴史」名古屋市上下水道局 水の歴史資料館

トイレの歴史 近代～現代

近代

世界



19世紀、フランスではナポレオン3世がパリの都市改革で下水道を整備し、パリ万国博では海外の使節団に公開されました。しかし現在のような下水処理場がなかったため、セーヌ川は垂れ流された汚水で汚れていました。1889年から市内全域の下水を処理するよう法律で義務付けられるとともに、市民の水洗トイレ化が義務付けられ、水洗トイレが普及していきました。

参考: 「トイレの知られざる歴史 海外と日本」日本水道センター

◀パリの公衆小便器「ピンソール」1865年

日本

明治になると木製便器にかわり陶器製が登場しました。東京に日本で初めての下水道もつくられました。しかしほとんどのトイレは汲み取り式でした。水洗トイレが普及するのは下水道や下水槽の整備が本格的に始まった関東大震災の後からです。

参考: 「日本のトイレの歴史」名古屋市上下水道局 水の歴史資料館 / 「縄文からIoT時代へ、トイレ1万年の進化」NTTファシリティーズ

明治時代の和式便器▶



現代

日本



温水洗浄便座▶

大正時代、1920年代ころから下水道や浄化槽の整備が進みました。戦後1960年代、高度経済成長期に入ると水洗トイレが普及し、洋式の便座は日本住宅公団が団地に採用してから一般家庭にも普及していきました。近年では「温水洗浄便座」など先進的な日本のトイレは海外でも注目されています。

参考: 「縄文からIoT時代へ、トイレ1万年の進化」NTTファシリティーズ

SDGs

SDGsの17の目標のうちトイレに関するものは目標6です。そこでは、世界のすべての人が安全に管理された水とトイレを持続的に利用できることを目標にしています。排泄物が安全に処理されていないと、免疫力の弱い人、とくに子どもたちは感染症で命を落とす可能性があります。2015年には「安全に管理された衛生施設(トイレ)」という定義が生まれ、トイレの設備があるなしだけでなく、排泄物が衛生的に管理・処理されているかどうか、他の世帯と共有されているかどうかなど、より厳格な基準が設けられています。

参考: 「ユニセフの主な活動分野 | 水と衛生」

安全に管理された衛生施設(トイレ)の基準

1	安全に管理された衛生施設(トイレ)	排泄物が他と接触しないように分けられている、あるいは、別の場所に運ばれて安全で衛生的に処理される設備を備えており、他の世帯と共有していない、改善された衛生施設(トイレ)。
2	基本的な衛生施設(トイレ)	他の世帯と共有していない、改善された衛生施設(トイレ)。
3	限定的な衛生施設(トイレ)	他の世帯と共有している、改善された衛生施設(トイレ)。
4	改善された衛生施設(トイレ)	人間が排泄物と接触しないよう、衛生的に設計された衛生施設(トイレ)。例えば、下水あるいは浄化槽につながっている水洗トイレ(水を汲んで流す方式、換気式トイレを含む)、足場付ピットトイレ、コンポストトイレなど。
5	改善されていない衛生施設(トイレ)	足場がないピット式トイレ、バケツに排せつし外に捨てる方式のトイレ(Bucket latrine)、池や川の上に設置され排泄物がそのまま落ちる方式のトイレ(Hanging latrine)など。
6	屋外排泄	道端、野原、森、やぶ、水域、海岸、その他の屋外で排せつすること。